

# ベスタピニア Bestopia

辻・本郷税理士法人  
小田原支部  
小原靖夫  
〒250-0011  
神奈川県小田原市栄町 1-8-1  
TEL 0465 (30) 2100  
FAX 0465 (30) 2101

平成二十二年十月  
第二八四号

## アルフォンス・デーケン先生 との受難劇旅行

二つの夢が同時にかなうことになった旅をしてきました。

アルフォンス・デーケン先生との出会いは、18年前朝日カルチャーセンターから出版された「第三の人生」ゆうゆう論という講座のカセットの購入でした。それ以来一度、先生の訶咳に接することでした。

受難劇は10年に一度ドイツのミュンヘンから80km、オーバ・アマガウ村で行われる。キリストの生涯の中の最後の5日間を、村をあげて(5000人の住民の2500人が参加する)その年の5月から10月、100回演じられる、壮絶にしてリアリティに富むドラマです。

感動した場面を三つ挙げるとしたら、

①マグダラのマリヤがイエスの足を洗う場面・・・感謝と憂い(そんなことがあってはならない。しかしそんなことは確実に起こることを予感したことによって起る)

②イエスが12弟子の足を洗う場面・・・これから起ることが理解できない弟子たち(人間たち)に、強くあれと願っているかのような、上からではなくあえて下に降りてこられて、下から神の愛を示す。

③「血しおしたたる主のみかしら」というバッハがマタイ受難曲で頻繁に用いているコーラルがふつふつと湧き上がる壮絶な苦しみの極みとその唯中における(人間へ)

の赦しの言葉

いずれの場面も、はじめからストーリーは削っているわけですが、面前に繰り広げられる人間による演劇によって、映画にはない言い知れぬ臨場感が伝わります。

教友の田中可子姉から「デーケン先生と一緒にオーバ・アマガウに行く旅がありますよ。キャンセル待ちですが」という情報をいただいて、迷わずキャンセル待ちの手続きをし、晴れて参加できたというラッキーな旅でした。

## アルフォンス・デーケン先生

1932年ドイツ生まれ。1959年来日。1973年より30年以上にわたり上智大学で「死の哲学」などの講義を担当。現在、上智大学名誉教授という有名な方です。

1991年にはわが国にはじめて「死生学」という新しい概念を定着させたとの功績で、第39回菊池寛賞を受賞されています。

現在も日本で「生と死を考える」協議会名誉会長をつとめるなど、社会人に「死生学」の門戸を開いて、学習活動をし続けられています。

アルフォンス・デーケン先生の訶咳に接したのは、この旅ではじめてですが、1992年に私は「第三の人生」ゆうゆう論、死への準備教育、デーケン教授の愛情論の三セットのカセットテープを購入していました。

28年も前から教えを受けていたわけで

す。そして無意識のうちにかんりのことを実践してきたのです。常な親しみと尊敬の念で一度お目にかかりたいと願っていたことが実現した待ちに待った旅でした。

第三の人生とは退職してからの人生で、65才～74才を young-old、75才以上を old-old とする考え方です。私もいよいよ退職を1年後に控え、職がなくなるという喪失体験をより深く味わう時期にぴったりと照準があったのです。

65才を過ぎると、ほとんどの人が一つずつ何かを失っていきます。共通なのは肉体的な若さの喪失。私の実感では瞬発力がなくなること、それまで健康を誇っていた人でも視力や聴力の衰え、私は特に記憶力の衰えには我ながら絶望に近いものを感じているところです。

こんな時にどうしたらいいのかの指針を示してくれるのが、デーケン先生の死生学です。

「第二の人生までは私たちは外に向かって、肩書きとか業績とか財産とかのために努力してきました。しかし第三の人生に向かうときは目標を次第に自分の内面へと移す必要があります。すなわち、これからは何を持つかではなく、どんな人間であるかが大切になっていきます (having→being)。

新たに見出すべき内面的価値としては、平常心、忍耐、聞き上手、寛大さ、誠実、希望、人々への思いやりなどが挙げられます。ひとつだけ挙げるなら、第三の人生を豊かに過ごすためのキーワードは希望。未来に向かって積極的な態度をとることが、心理年齢を若々しくしてくれます。」(デーケン先生講演録より引用)

そして、ユーモアと笑い、これが高齢社会の妙薬だと30年前から言われています。

ユーモアとはドイツの有名な定義では「にもかかわらず笑うことである」と教わりました。とても大切なことは共に笑うこと、親しい者と共に笑うこと、家族が共に笑うこと。私に欠けているユーモアを求める旅に出たいと思います。

次の言葉が私にとって真実になることを願って。

「もし一人の人間によって少しでも多くの愛と平和、光と真実が世にもたらされたなら、その一生には意味があったのである」

(アルフレッド・デルプ※)

※)ドイツの哲学者、神父。第二次大戦中反ナチ運動のリーダーとして37才で処刑された。